

■「効果の見える治水事業」

高知県 長沢川砂防堰堤スリット化

四万十町西部に位置する長沢川は、一級河川四万十川中流域の支川であり、河川延長9.8km、流域面積34.3km²の豊かな自然環境に囲まれた地域を流れています。四万十川流域では、流入土砂をコントロールし、本川の河床上昇による氾濫を抑制する目的のため、昭和30年代から40年代にかけ多数の砂防堰堤が建設され治水上大きな役割を担ってきました。

しかしながら、近年、流入土砂の減少による四万十川の河床低下とそれに伴う河川環境の悪化が、漁業者を中心とする流域住民から問題視され、水系一貫を視野に入れた流域土砂管理を強く求められました。そこで、大規模な土砂流出があった場合は一時的にこれを抑制し、平常時にはその堆積土砂を徐々に下流側に流すことができるよう、既設堰堤のスリット化を行いました。

今後はスリット部の状況等を定期的に確認し、効果が最大限発揮されるよう維持管理を続けていきたいと考えています。

最後に本事業に協力して頂いた地域住民の皆様をはじめ、関係機関の方々に深く感謝申し上げます。

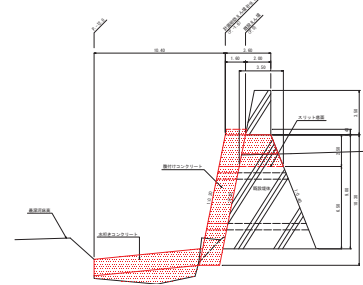
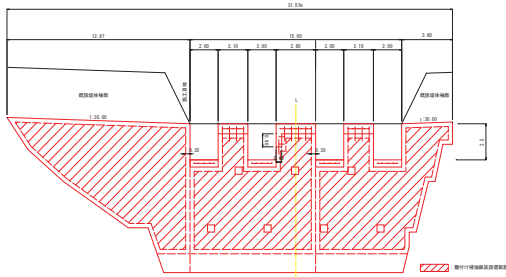


高知県須崎土木事務所 いのうえ ひろもと
四万十町事務所 所長 井上 博元



位置図

長沢川砂防堰堤スリット化の概要
 > 構造：透過型砂防堰堤（コンクリートスリット堰堤）
 > 堤体延長：31.57m > 堤体高：9.0m
 > スリット幅：総幅8.0m（1箇所あたり2.0m×4本）
 > スリット高：2.6m > 越流水深：2.7m

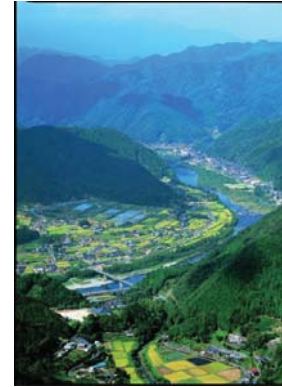


着工前の状況



砂防堰堤のスリット化 完成

二十一世紀につたえる ふるさとの風景 四万十川

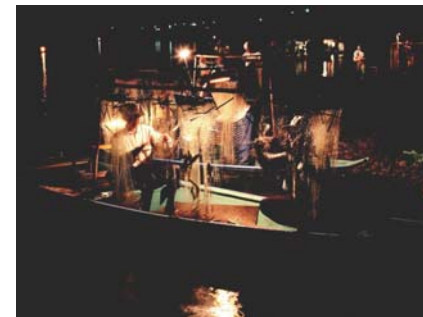


たかせ みつひさ
四万十町長 高瀬 満伸

四万十町は、平成18年3月に窪川町 大正町 十和村の町村合併により県下最大面積642 km²の町として誕生しました。高知県中西部に位置し、中央を清流四万十川が東から西へと大きく蛇行して流れる自然豊かな所です。その中流域にあたる十和地域は、こいのぼりの川渡し、川下りやキャンプ、鮎の友釣りなど、思い思いのアウトドアを満喫するスポットが点在し、多くの観光客に親しまれ、この地を好む1人の方も増えています。

火振り漁などの伝統漁法も盛んで「四万十の鮎 鰻」としてその名が知られていますが、漁獲量は年々減少しており、その要因には山の荒廃、生活・農業排水による水質悪化が挙げられ、町は漁業者と議論を重ね、下水道、農業集落排水施設、四万十川方式による水質改善施設の設置とともに、生活排水の水質改善のための啓発活動や、保水力を高めるための森林の間伐奨励等を行うと同時に、高知県に対して、支川に多数ある砂防堰堤に堆積した河川砂利を適切に流下させ水質浄化作用を高めるよう要望してきました。

この度、長沢川砂防堰堤のスリット化を県が実施したことで、支川から四万十川への適正な砂利供給の取組みが一步前進しました。今後も継続して要望するとともに、清流四万十川と流域の環境保全に努め、ふるさとの原風景を後世につたえ、山と川と海、自然と人が元気なまちづくりを目指します。



伝統の火振り漁



スリット化された長沢砂防堰堤